

日本人の体格の推移に関する考察

重田 定正

I 過去の日本人の体格

日本人の体格は、最近著しく改善されたといわれる。厚生省公衆衛生局栄養課編 国民栄養白書(昭和 32 年度国民栄養調査成績)には、“戦争終了後に著しく低下した国民の体位は、逐年回復をみせ、おおむね、昭和 30 年頃から青少年の体位は戦前に日本人が記録した最高の体位の水準を上回るまでに回復している。”と述べられている。国民栄養調査は、栄養欠陥調査とともに、5 月に国民のある特定の集団について身長・体重・胸囲・座高・脈はく数・血圧を測定した結果、国民体力の推移に関する見解を発表したのである¹⁾。

過去における日本人の体格を知る資料としては、縄文時代や弥生時代の貝塚や住居跡から出た人骨と古墳時代の人骨があるばかりだったが、最近になつて鎌倉時代、室町時代、江戸時代に属する人骨が続々と発見されるようになった。これらの人骨について調査した結果によると、確実なことはいえないが、時代によって多少の増減があつて、石器時代から江戸時代までを通じて概して低く男の平均値は 160cm を下廻る。もっとも古墳時代の人骨にはかなり大きいものがあるが、それは高塚古墳(当時の支配階級の墓と考えられる)から出たもので横穴古墳(庶民の墓と考えられる)の人骨では身長が低いのが普通である。よく昔の人は現代人よりずつと背が高かったのではないかと疑問をもつ人があつたが、決してそのような事実はなく、現代日本人は日本歴史上空前の平均値を示しつつあるわけである²⁾³⁾。

人骨による体格の判定は、骨格が完全に保存されてさえいれば、身体各部位の計測の正確は期待されるのであるが、昭和時代の日本人について

は、この人骨による計測はどの程度の信頼度をもつてであろうか。

厚生省の調査によれば、昭和 32 年において、火葬されている死体数は 48.91%、いわゆる 6 大都市では、死体総数 95,350 中、火葬は 84,212 で、82.32% である。もし東京都を 23 区の範囲に限れば、火葬死体率はさらに高くなるわけである。全国には埋葬のほうが多い府県は約 20 あつて、鹿児島県では火葬死体率は 17.60% に過ぎない。この事実は、昭和時代の日本人の体格を骨格によって判定することの不合理を示している(第 1 表)。

第 1 表 都道府県別埋葬火葬死体数 (昭和32年)

	総数	埋葬	火葬
全 国	712,606	279,337	433,269
北 海 道	34,359	1,061	33,298
青 森	12,603	3,747	8,856
岩 手	12,405	8,473	3,932
宮 城	13,067	8,262	4,805
秋 田	9,912	5,523	4,389
山 形	11,612	3,429	8,183
福 島	18,820	13,797	5,023
茨 城	17,961	14,717	3,244
栃 木	14,387	10,075	4,312
群 馬	13,715	8,654	5,061
埼 玉	20,375	14,229	6,146
千 葉	18,432	13,310	5,122
東 京	40,326	8,847	31,479
神 奈 川	20,915	5,345	15,570
新 潟	21,440	2,520	18,920
富 山	9,063	—	9,063
石 川	9,422	14	9,408
福 井	7,587	700	6,887
山 梨	6,535	5,219	1,316
長 野	17,439	10,457	6,982

* SADAMASA SHIGETA: A Study on the Change in the Physique of the Japanese.

岐 阜	13,168	6,047	7,121
静 岡	21,422	6,172	15,250
愛 知	28,231	5,450	22,781
三 重	12,975	5,841	7,134
滋 賀	7,510	4,720	2,790
京 都	16,446	5,577	10,869
大 阪	35,723	1,699	34,024
兵 庫	26,703	8,474	18,229
奈 良	7,941	4,510	3,431
和 歌 山	8,838	4,150	4,688
鳥 取	5,366	3,215	2,151
鳥 根	8,849	6,251	2,598
岡 山	15,732	9,217	6,515
広 島	14,262	1,344	12,918
山 口	16,646	3,706	12,940
徳 島	5,652	1,724	3,928
香 川	8,485	1,735	6,750
愛 媛	13,629	6,261	7,368
高 知	8,491	6,358	2,133
福 岡	31,659	2,467	29,192
佐 賀	8,802	2,173	6,629
長 崎	9,476	6,105	3,371
熊 本	17,595	10,490	7,105
大 分	12,163	5,606	6,557
宮 崎	8,058	6,497	1,561
鹿 児 島	18,409	15,169	3,240

(厚生省公衆衛生局環境衛生課調)

人骨計測以外に、体格を知る方法の1つに、記録がある。昔の日本人の体格に関する記載は、伝記あるいは歴史、随筆における風聞録の類などに見られるが、その数値に関する限り信頼するに足りないものが多い。これは、体格に関する記述がその主な目的でないことも関係しているが、これらの数字が文学的修飾として用いられていることにも原因があると考えてよいであろう。

たとえば、古事記には、反正天皇の御身の長9尺2寸半御齒の長さ1寸と、日本書紀には、日本武尊の身長は1丈で力はよく鼎を扛げたもうと、また仲哀天皇は容姿端正、身長10尺とあるなどは、いずれもそのまま信用できない。しかし紀元850年頃著わされた文徳実録や三代実録による

と、当時の高官で身長に記載がある者は、いずれも6尺から6尺3寸くらいあり、慈覚大師の身長は5尺8寸、坂上田村麻呂のも5尺8寸胸厚1尺2寸という記述があり、記紀のものに比べると、誇張の程度は少ないようである。日本および中国の尺度には、最短曲6寸4分から最長曲1尺8寸まで、実に8種類の多きに達しているが、わが国でも平安朝の頃になると、現在用いている尺度と著しい差はないだろうといわれている⁴⁾⁵⁾。いずれにしても一般人に比べてその体格が特に大きいか小さいとかが、関心や興味をもたらしたため、記録され報道された事例が多いから、これによって当時の日本人の平均あるいは標準の体格について知り得ないのは当然といってよい。

II 明治以後の日本人の体格

多数の日本人に対して一定の方法によって測定し、しかもその記録が保存されているのは、陸軍の徴兵検査がなくなつてしまった現在では、文部省のおこなっている、古くは活力検査(肺活量測定の規定がある)、体格検査(身体計測が重視されていることがうかがわれる)、それからかなり長い間続いて広く国民に親しまれた名称である身体検査(体格だけでなく身体全体・疾病異常まで検査するという目的を示すため)、昨年からは健康診断(健康論の勃興が改名の大きな理由といえよう)と呼ばれうるようになった学校保健における重要な事業の一部として今後も続けられる身体計測だけになってしまった。

続日本後記には、貢身長6尺巳上者と、文徳実録には、選進長人6尺2寸以上者とあるが、明治5年徴兵会の布告とともに、身体検査に関する諸規程が定められ、兵の身長を5尺3寸(160.6cm)としたということが、当時陸軍一等軍医であった石黒忠憲の懐旧談によって知り得た⁶⁾。なお、壮丁の身長は、明治27年頃は、平均156.4cmであったが、昭和6~7年頃には160cmあるいはそれ以上になっている。しかるに体重はこれに従って増加しないで、52~53.0kgのところを上下しているという報告がある。

第 2 表 壮丁身長の年次別推移 (単位 cm)

昭和元	同 2	同 3	同 4	同 5	同 6	同 7
159.4	159.7	159.6	160.2	159.8	160.0	160.0

これら徴兵検査における身体検査の統計成績は、わが国壮丁の体格を知るため最も適当な資料であるにもかかわらず、戦後これを焼却してしまつて、関係官庁にも保存されていないということ

である。

それ故に、明治以後の日本人の体格の推移を知るためには、文部省の身体検査統計を紹介せざるを得なくなっている。ここには、約 10 年の間隔をおいた 6 年度の身長・体重・胸囲の数値を抄録しよう⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾。

第 3 表 学生生徒児童身体計測値

身長 (単位 cm)

男

年 齢	明治 33 (1900)	同 43 (1910)	大正 9 (1920)	昭和 5 (1930)	同 15 (1940)	同 25 (1950)	同 33 (1958)
6	107.0	107.0	107.0	108.1	—	108.6	110.9
7	110.9	111.2	112.1	113.2	—	113.6	116.2
8	116.1	115.8	116.4	118.0	—	118.4	121.4
9	120.0	120.3	120.9	122.6	—	122.9	126.1
10	123.9	124.5	125.5	127.0	—	127.1	130.7
11	127.9	128.5	129.4	131.4	—	131.1	135.1
12	133.9	133.6	134.8	137.1	—	136.0	140.8
13	140.0	139.1	140.6	143.3	—	141.2	147.1
14	147.0	146.4	148.2	150.7	—	147.3	153.6
15	152.1	152.7	154.2	156.2	—	154.8	160.3
16	156.1	157.3	158.2	159.5	—	159.3	162.9
17	157.9	159.1	160.0	161.0	—	161.8	164.3
18	160.0	160.0	161.2	161.8	—	162.6	165.6
19	160.0	160.9	161.8	162.3	—	163.3	165.8
20	160.0	161.5	162.4	162.5	—	163.7	166.0
21	160.9	161.2	162.4	163.0	—	163.7	166.1
22	160.0	161.5	162.7	162.9	—	164.0	166.1
23	160.9	161.2	161.5	163.1	—	164.0	165.9
24	160.9	161.2	162.7	164.0	—	163.9	165.4

女

年 齢	明治 33 (1900)	同 43 (1910)	大正 9 (1920)	昭和 5 (1930)	同 15 (1940)	同 25 (1950)	同 33 (1958)
6	104.8	105.8	105.8	106.9	—	107.8	109.9
7	110.0	110.0	110.3	111.9	—	112.8	115.2
8	113.9	114.5	115.2	116.7	—	117.6	120.4
9	119.1	118.8	119.7	121.3	—	122.1	125.5
10	123.9	123.6	124.2	126.0	—	126.6	131.0
11	127.9	128.5	129.7	131.3	—	131.7	136.6
12	133.0	133.6	136.1	138.4	—	137.3	142.8
13	137.9	139.1	141.5	143.5	—	142.5	147.1

14	143.0	143.6	146.4	147.7	—	146.6	149.9
15	144.8	147.0	148.2	149.6	—	151.0	152.3
16	146.1	148.2	149.1	150.6	—	151.9	153.1
17	147.0	148.8	149.7	150.7	—	152.5	153.5
18	147.0	148.5	150.3	151.2	—	153.2	154.4
19	147.0	148.2	150.9	151.0	—	153.6	154.6
20	147.9	149.1	150.9	150.5	—	153.8	154.6
21	147.9	149.1	150.6	151.1	—	153.3	154.6
22	147.9	149.4	151.2	151.1	—	153.4	154.6
23	147.9	149.1	150.3	150.1	—	153.0	154.5
24	146.1	147.9	148.5	149.2	—	152.5	154.3

体 重 (单位 kg)

男

年 齡	明治 33 (1900)	同 43 (1910)	大正 9 (1920)	昭和 5 (1930)	同 15 (1940)	同 25 (1950)	同 33 (1958)
6	17.0	17.5	17.6	17.9	—	18.5	18.9
7	20.0	19.2	19.4	19.8	—	20.4	20.9
8	21.0	21.1	21.2	21.8	—	22.4	23.1
9	23.0	22.9	23.2	23.8	—	24.4	25.3
10	25.0	24.9	25.3	25.9	—	26.4	27.6
11	27.0	27.1	27.5	28.4	—	28.7	30.2
12	29.0	29.8	30.5	31.8	—	31.5	34.0
13	33.0	33.5	34.6	36.2	—	35.1	38.8
14	38.0	38.6	39.9	42.0	—	39.7	44.2
15	43.0	44.6	45.2	47.1	—	45.7	50.4
16	47.0	48.5	49.1	50.6	—	49.9	53.6
17	50.0	51.4	51.8	53.0	—	52.6	55.7
18	52.0	52.7	53.4	54.3	—	53.9	56.6
19	53.0	53.6	54.1	54.8	—	54.6	56.6
20	53.0	54.3	54.4	54.8	—	55.0	56.7
21	54.0	54.5	54.5	54.7	—	55.3	56.9
22	53.0	54.4	54.3	54.8	—	55.5	56.7
23	53.0	54.9	54.3	54.9	—	55.5	56.7
24	52.0	54.0	54.6	54.9	—	55.7	56.4

女

年 齡	明治 33 (1900)	同 43 (1910)	大正 9 (1920)	昭和 5 (1930)	同 15 (1940)	同 25 (1950)	同 33 (1958)
6	17.0	17.0	17.0	17.3	—	17.9	18.4
7	19.0	18.4	18.6	19.0	—	19.8	20.3
8	20.0	20.3	20.0	20.9	—	21.8	22.5
9	22.0	22.2	22.4	23.0	—	23.8	24.9
10	25.0	24.3	24.6	25.4	—	26.0	27.7
11	27.0	27.0	27.4	28.5	—	28.8	31.3